

# たけのこだより

京都市立竹田小学校  
校長 大西 一幸

## 後期学校教育アンケートの結果を振り返って

保護者の皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は本校教育活動にご理解・ご協力いただき誠にありがとうございます。後期の学校評価の結果をまとめましたので、お知らせします。お忙しい中、アンケートへのご協力ありがとうございました。学校教育アンケート(児童・保護者・教職員)の結果は、重要度(「重要である」「やや重要である」を合わせた数値)、実現度(「よくできている」「大体できている」を合わせた数値)が全体に占める割で表しています。

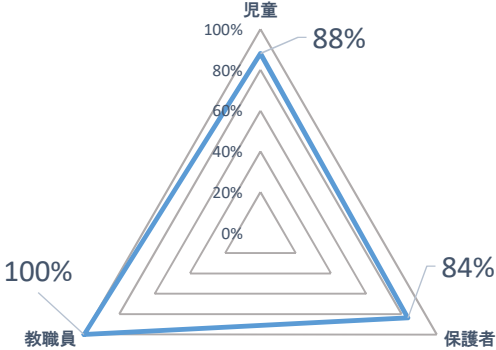
質問項目	前期		後期		前期			後期		
	保護者	教職員	保護者	教職員	児童	保護者	教職員	児童	保護者	教職員
	重要度		重要度		実現度			実現度		
① じゅぎょうにまじめにとりくみ、はなしをしっかりきいたり、はつびょうしたりしている	97%	100%	98%	100%	85%	78%	100%	80%	78%	100%
② ともだちときょうりよくしてべんきょうしている	97%	100%	100%	100%	91%	84%	92%	88%	84%	100%
③ いえでかならずしゅくだいやじしゅがくしゅうをしている	99%	100%	99%	100%	92%	84%	83%	90%	87%	93%
④ ほんをよくよんでいる	98%	100%	96%	100%	83%	55%	77%	75%	53%	80%
⑤ まわりのひとにすすんであいさつしている	100%	100%	99%	100%	79%	84%	100%	80%	80%	94%
⑥ やくそくやきまりをまもっている	100%	100%	100%	100%	88%	89%	100%	90%	92%	100%
⑦ はやね・はやおきをし、ごはんをしっかりたべている	100%	100%	100%	100%	84%	87%	92%	89%	82%	81%
⑧ すすんでうんどうしている	95%	100%	98%	100%	86%	72%	92%	87%	68%	93%
⑨ ともだちとなかよくあそんでいる	98%	100%	99%	100%	96%	94%	83%	95%	95%	100%
⑩ いえのひととよくはなしている	100%	100%	100%	100%	96%	96%	79%	91%	94%	94%
⑪ こまったときはせんせいにそうだんしている	98%	100%	98%	100%	81%	87%	100%	73%	88%	100%

### 重要度の集計結果から

#### 保護者・教職員のみ

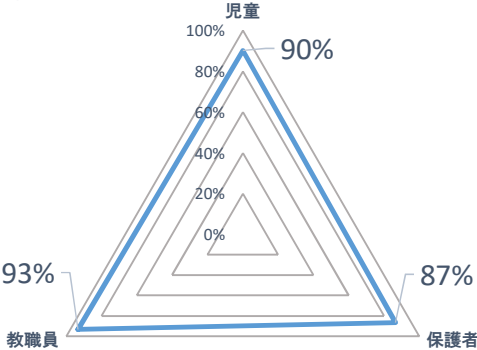
今回も、教職員におきましては、すべて重要であるという認識をもって教育活動に当たっている一方で、保護者の皆様のアンケートの回答につきましても、96%以上の方から全項目において重要であるというご回答を頂きました。前期と比較してほとんどの項目で上昇が見られ、従来の教育活動の再開を望まれている結果であることがわかります。

### ② 友達と協力して勉強している



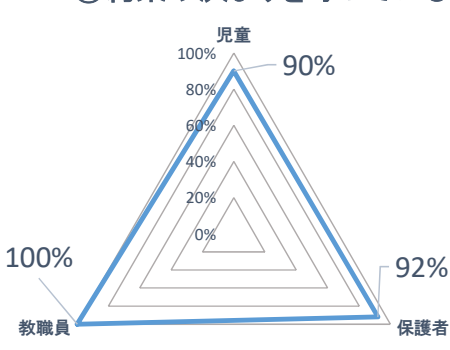
後期の回答結果においては、児童のポイントが前期と比較して下がりました。3学期が始まり、新型コロナウイルス感染症の再拡大が起こり、学級閉鎖や自宅待機が相次ぎました。そして、クラスでみんなが揃って授業を受けることが非常に難しい状況が続いたことが要因の1つではないかと考えられます。一方で、教職員側は、GIGA端末の活用が進み、子どもたちがロイロノートやTeamsを使って、友達と考え方を共有したり、自分の考えを分かりやすく伝えたりする機会を学習活動の中に多く設けるように工夫しています。そうすることで、今まで以上に協働的に進める学習活動の機会が増えています。来年度は学校生活の中に更にGIGA端末が浸透し活用できるよう、一層工夫した取組を進めていきたいと思っています。

### ③ 家で必ず宿題や自主学習をしている



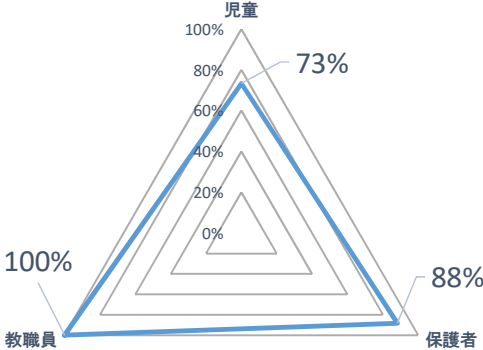
児童の実現度においては、前期より少し下がりましたが、保護者と教職員は大きく上昇しました。家庭や学校での地道な声掛けで子どもたちの意識も少しずつ高まってきていると感じています。また、3学期のキズナ学習では、自身の成長を振り返る機会をもつようにしています。子どもたちが改めて家庭学習にコツコツと取り組むことの大切さに気付くように、働きかけを続けていきたいと思っています。来年度は、GIGA端末でデジタルドリル学習等の課題に取り組む機会が増える見込みで、自主学習等にも役立てられるツールとなります。子どもたちの学習効果を上げられるよう教職員も研究をしながら、子どもたちにとって、個別最適な学習方法が見いだせるよう努めたいと思っています。

### ⑥ 約束や決まりを守っている



後期のアンケート結果で、全体が向上したのがこちらの項目です。子どもたちは、日々、感染症対策の取組として、マスクの着用・手指の消毒・黙食・3密を避けること等、お互いを大切にするための約束を進んで守ろうと協力してくれました。また、児童会を中心とした月目標を全校で共有する取組や、キズナ作文の取組を進める中で、自身の生活を振り返り、自らの行動を見直す機会をもつようにしてきました。来年度も、高学年の児童を中心に児童会活動を活性化させることで、よりよい学校生活が過ごせる環境づくりを進めて行きたいです。また、キズナ学習では自分も他者も大切にする姿勢を育てていきたいと思っています。ご家庭でも子どもたちが意欲を高められるよう、ご支援ください。

### ⑪ 困った時は先生に相談している



後期のアンケートで、一番児童の減少が大きかったのがこの項目になります。コロナ禍で様々な制限が課される中、子どもたち同士や子どもたちと教職員の関わりに微かな距離感ができてしまっていることを認識しています。教職員は子どもたちの困りに寄り添っていききたいという思いでいるのですが、十分に支援できていない現状にある点を今後の課題として捉えています。子どもたちの中には、困りを抱えていたり、困りを伝えきれない子どもの存在があるということを認識し、来年度は、子どもたちとの関わりを一層大切にすることによって、困りを伝えやすい環境を作っていきたいと思っています。ご家庭でも子どもたちの悩みがありましたら学校と連携して、対応してまいりますようお願いいたします。

### 自由記述欄から

「GIGA端末の利用を増やしてほしい」、「オンライン授業を増やしてほしい」、「コロナ禍で欠席してしまった分のフォローをお願いします」、「前月に、翌月の予定を知りたい」、「子どもが本から離れていっているので、本を紹介してほしい」など、ご意見やご指摘を真摯に受け止め、今後の教育活動に活かしていきます。

### 学校運営協議会理事会より

子どもたちのあいさつの項目が少し改善されたという結果は、よいことだと感じる。今後も、大人が様々な面でよい手本を示していかなければならない。見守り活動や近所での声かけを引き続きしていくので、一層あいさつが広がっていけばよいと思う。また、コロナ禍で、子どもたちがゲームやスマホをする時間が増えていると聞いている。子どもたちの健全な成長を促せるように、また、読書に親しめる環境づくりができるように、家庭・地域・学校で協力して、今後も働きかけをしていきたい。

### 学校教育アンケート全体を通して

今年度のアンケートの回答をみて、教職員や保護者が、子どもたちの健やかな成長を見守っていく上で、11のアンケート項目1つ1つの内容が大変重要であるということ改めて認識しました。今年度も、新型コロナウイルスの影響を大きく受け、緩和されつつあった活動場面にも再度制約が加わり、行事や学校生活において、中止や見直しながされてきました。大人も、子どもも新しい生活様式に徐々に慣れてきたのだと思います。アンケートの実現度が全体的に低下しているのは、コロナ禍の影響があったことは否定できません。しかし、不安定な時期だからこそ、家庭と地域と学校が連携して、子どもたちの不安を減らす働きかけを今後も行っていく必要があります。明るい話題としては、約束や決まりを守っている項目において、上昇が見られたということです。コロナ禍における家庭での温かい見守りをもとより、児童会活動再開による高学年の「みそあじ運動」の呼びかけ、「キズナ学習」をはじめとした自身の生活を振り返る機会などが、成果につながったのだと思います。各項目では、まだまだ課題はありますが、今後も子どもたちへのよりよい関わり方、働きかけの仕方を工夫していくために学校評価アンケートの結果を活かしていきたいと思っています。これからも教職員と保護者の皆様、地域の皆様とが情報交換をしながら、子どもたちへのよりよい働きかけを考えていきたいと思っています。どうぞ、よろしくお願いいたします。